

近年発生した大きな地震でケガをした原因は、家具類の転倒・落下が約30～50%を占めています。

(東日本大震災は、被災者が津波によるものが多く、データも未発表のため対象から除外した。)

家具類の転倒・落下は、直接あたってケガをするだけでなく、つまずいて転んだり、割れた食器やガラスを踏んでケガをしたり、さらに避難通路を塞いで逃げ遅れるなど、いろいろな危険をもたらします。

## 家具転倒防止対策のポイント

4つの対策のポイントをチェックし、対策を行っていなければ、速やかに行い、わが家の安全を確保しましょう。

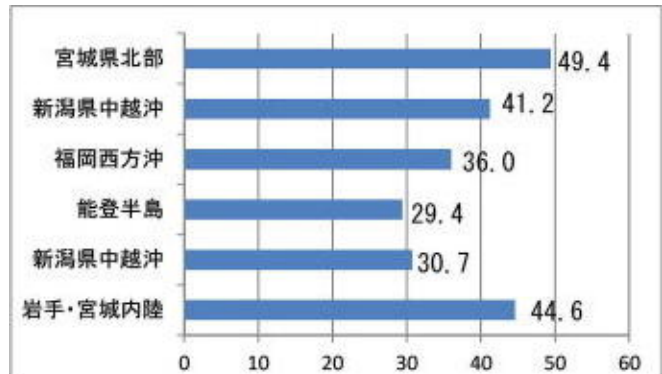
### 1 安全空間を確保する

- 寝室、幼児・高齢者のいる部屋にはなるべく家具を置かない。
- 部屋の出入り口付近や廊下、階段等に物を置かない。
- 地震時の出火を防ぐため、火気の周辺に家具を置かない。
- 家具の上にガラス製品等壊れやすい物を置かない。



### 4 収納物の飛散を防止する

- 開き戸タイプの家具には開き扉ストッパーを取り付ける。
- ガラス扉には飛散防止フィルムを貼る。
- 扉のない収納家具には、ビン類落下防止具を取り付ける。
- 吊り下げ式照明器具の補強を行う。
- 防災カーテンを取り付ける。



### 2 家具の正しい設置・使用を行う

- じゅうたんや畳に背の高い家具を置かない。
- 重い物を下の方に収納し、倒れにくくする。
- 前のめりより、後ろもたれ気味に置く。

### 3 転倒防止器具等で固定する

- 壁にL字金具等で固定する。
- 壁や床に直接固定できない場合、2種類以上の器具で上下から固定する。
- 上下が分割している家具は必ず金具で連結する。【金具連結器具】
- 壁への固定が困難な場合、天井との隙間を埋める。